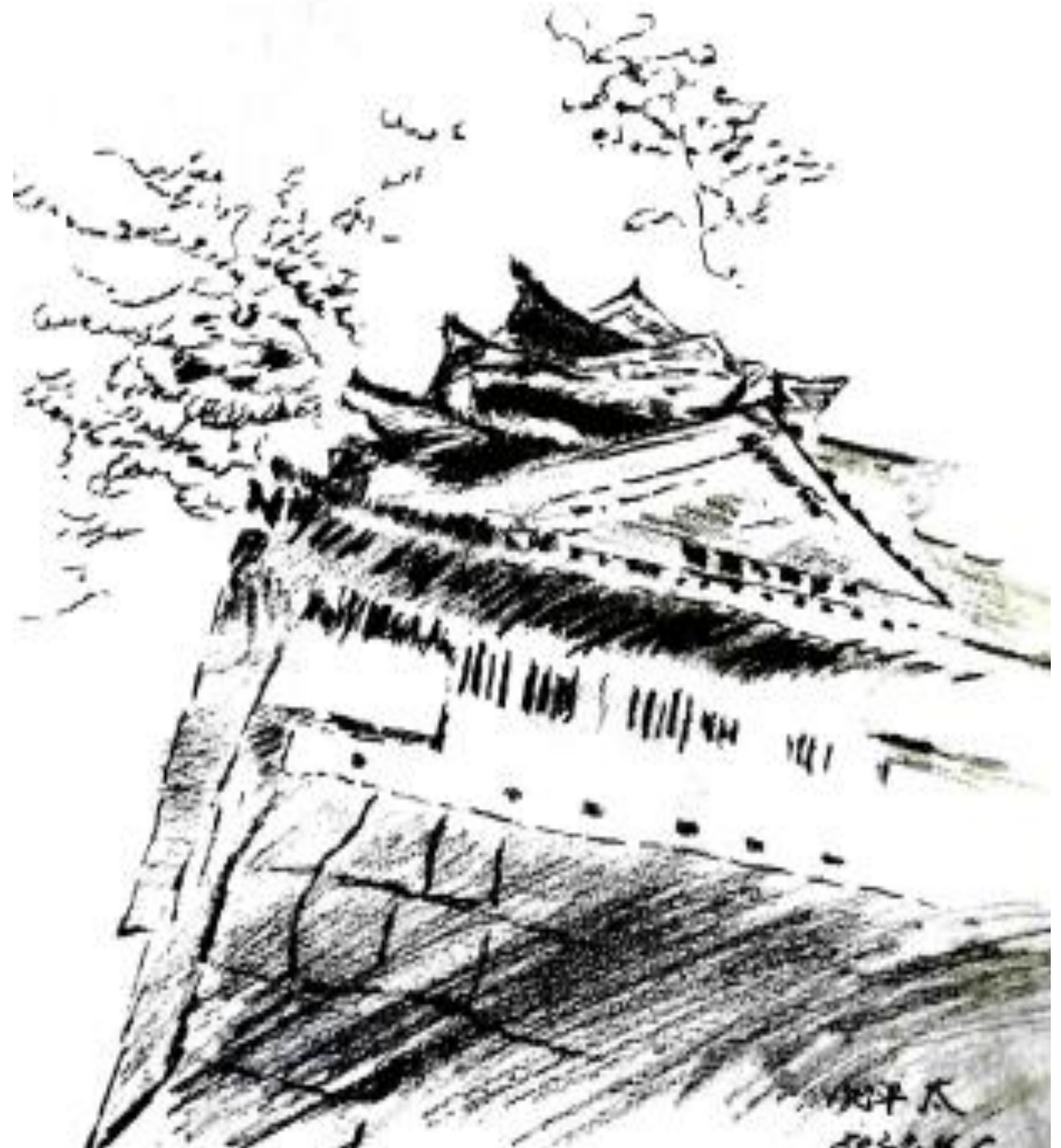


# 閣守天柳川

2024年11月号



# 第18回例会 2024年10月15日(火)

## 投句締切分

### お題 「見逃し」

勘兵衛 選

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 裏金を黙認してる二枚舌       | 平川柳   |
| 急騰株見逃し無念涙飲む       | 久世高鷲  |
| 見逃した女性初の総理の座      | 久世高鷲  |
| 友情で見逃してやる友のミス     | 東尾由子  |
| 絶好のチャンス見逃すアンラッキー  | 井澤壽峰  |
| 見逃せず早い者勝ち狡い人      | 東尾由子  |
| 空振りはいいが見逃し悔やまれる   | 岡野とら丸 |
| 少々のウソを見逃す大人ワザ     | ルイ    |
| 興味ないものは世に存在しない    | 蔵内歳重  |
| 金木犀見逃していた真理あり     | 直子    |
| 見逃した事も気づかぬ昼の月     | 林ともこ  |
| 見逃すこと出来ぬ議員の悪巧み    | 松谷由夏  |
| (五客)              |       |
| 佳5 見逃して一旦停止お巡りさん  | 松谷由夏  |
| 佳4 母は見逃す五万失敬財布から  | 松島きよみ |
| 佳3 未練でも多少の嘘は見逃して  | 船木しげ子 |
| 佳2 見逃したツケはトップが頭下げ | 三枝なな  |
| 佳1 秋空に見惚れあなたを見逃した | 直子    |

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 人 見逃した些細な悪が太り出す | 岡野とら丸 |
| 地 注意書き見逃し商機また逃し | 加山勝久  |
| 天 愛のサイン風を見逃す鈍い人 | 堀内きみ子 |
| 軸 見逃しの三振したか我が人生 | 勘兵衛   |

#### (選評)

##### 人の句

今度の選挙戦では些細な悪でも見逃さないようにしたいものです。

##### 地の句

「逃がした魚は大きい」と言う。  
もはや後悔しても無駄というステージの人生なのだが、  
思い返してみると「あの時、ああしていたら」と、  
思うことはいくつかある。

##### 天の句

女性から男性に皮肉を混せて訴えている心の中の思いで、  
感度の悪い人は多々居るがそれが男だと言いたい。

# お題 「優しい」

東尾由子 選

優しさに触れてしまった彼岸花

どこまでも人に優しい五七五

優しさと厳しさ父の二刀流

わかっても優しい嘘に騙される

年重ね優しい言葉待っている

幼子に向けてる眼差し柔らかい

被災地に優しい風のボランテア

無口でもいつも優しい眼が語る

知らんぷりするのも思いやりなのね

被災地へ人に優しいボランテア

知らぬ間にそっと吹いてる千の風

優しさの言葉の裏に隠す罫

直子

春田敏晴

久世高鷲

松谷由夏

船木しげ子

ルイ

松谷由夏

船木しげ子

島根写太

勘兵衛

真鍋心平太

岡野とら丸

佳5 足踏みのミシンの音が子守唄

佳4 独り住まい優しい声で詐欺に遭う

佳3 お帰りと優しい里の駅と風

佳2 優しさは言葉の端に出てきます

松島きよみ

加山勝久

松島きよみ

信子

## (三才)

佳1 死ぬ時は一緒と見つめ合う二人

平川柳

人 やさしさに包まれ食べるオムライス

平川柳

地 優しくて温い心のボランテア

山野寿之

天 母さんは優しさ怖さ合わせ持つ

美代

軸 さりげない優しい言葉身にしみる

東尾由子

## (選評)

### 人の句

オムライスは母の優しさを思い出し、  
包まれるという言葉が母に重なりました。

### 地の句

気持ちがあっても、なかなかボランテアは  
出来ないものですが、本当に温い心のある人が  
ボランテアをしてくださっているんだと思いました。

### 天の句

母親は怒ったり、抱きしめたりと  
私の母を思い出す句でした。

# お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

トーマスもああしんどいと八十路坂

美代

小さい秋今日の夕餉は小秋刀魚

佐野正邦

蛸壺に閉じ込められていたわたし

直子

ピンピンと励みボックリ逝く命

井澤壽峰

3日目のいやいや病にうす明かり

三枝なな

デイに行く人生を聞く機会待つ

武智三成

年重ね自分らしくと歩く路

東尾由子

挨拶だけして直ぐ帰るような秋

蔵内歳重

突き詰めるほどもなかつたお月さん

武智三成

ポケットに夢の欠片と小さい意地

島根写太

消えそつな月が曲がつてゆく別れ

平川柳

人生を飾るの太陽だけじゃない

春田敏晴

ほどほどに上書きしてる遺言書

松谷由夏

## (五客)

佳5 三日月をゴンドラにして語る恋

山野寿之

佳4 病院の外鳥になりたい

堀内きみ子

佳3 B面に隠し持つてる素の自分

松谷由夏

佳2 あっけらかんかぼちゃの花が実をつける

秋田あかり

佳1 問いかかけをやめた案山子の深い闇

平川柳

## (三才)

人 宅配の中のメモにはジンとくる

信子

地 玉葱を剥いて無心が現れぬ

船木しげ子

天 石になって転がってはいないチャンス

信子

軸 忘れてませんか遠くを見ることを

真鍋心平太

## (選評)

人の句

メモから往時のように、ふるさとの星が見え、

ふるさとの風の音が聞こえ、そして無言の別離が思い出されます。

メモ1枚あるとないとで荷物の重さは大きく変わりますね。

地の句

玉葱を剥いても出てくるものは何もない。

玉葱を剥く無心から出てくるものは「空」である。

般若心経の「色即是空 空即是色」が思い出された。

天の句

チャンスが石のように転がっていて

運が良ければ手に入るのならいいのだが、

そうではないと作者は言っている。

「チャンスは自ら掴むものだ」と。

作者の力強い意思が感じられる句。

# お題 「ぼんやり」

互選

1点 海馬洗いぼんやりするも生きる道

ひまわりをぼんやり食べるソフィア・ローレン

朧月浮かぶ月影見る二人

勿体ないぼんやり時が過ぎてゆく

お月さん雲の向こうに見え隠れ

頬杖を突いてぼんやりする気分

ぼんやりと総理の後ろ黒づくめ

ぼんやりと一日過ごす日は真近

2点 波の音がボクのぼんやり誘い出す

愛の巢へうすぼんやりの協和音

ぼんやりと卒寿夫婦に湯のけむり

肥料運ぶとお茶を忘れる注意力

蒼穹の空ぼんやり見てる羊雲

朝焼けをぼんやり眺めいざ歩け

長椅子のぼんやり聞こえない雀

黄昏に影ぼんやりとすれ違ふ

ぼんやりと見えてる友が懐かしい

ぼんやりとしている暇も無い傘寿

秋風がぼんやり顔を撫でていく

ぼんやりと庭木いじりが至福時

遠花火ぼんやり眺めている団子

3点 ぼんやりを容認されて吾亦紅

脳の何かが記憶したものの覆いゆく

堀内きみ子

小林満寿夫

久世高鷲

松谷由夏

浜脇蓬生

山野寿之

春田敏晴

勘兵衛

信子

島根写太

加山勝久

蔵内歳重

美代

勘兵衛

武智三成

浜脇蓬生

真鍋心平太

井澤壽峰

佐野正邦

加山勝久

小林満寿夫

三枝なな

蔵内歳重

我が姿ぼんやりと見る八十路坂

彗星が消えてゆくのを一時間

膝寂し祖母ぼんやりとベット口ス

ぼんやりと昼の月とはお話しを

ぼんやりと生く先見えて来た余生

ぼんやりと灯るガス燈謎めいて

ぼんやりと雨の音だけ聞くひとり

終日をぼんやり過ごす外は雨

ぼんやりと過ごす時間を責める性

ぼんやりと挨拶もせず暮れる秋

ぼんやりとわたしに絞る青レモン

蝉しぐれ消えて紅葉の水墨画

ぼんやりと老いへの不安秋の雨

チャンスが逃げて行くぼんやりの隙間

ふるさとの記憶ぼんやり温かい

恍惚のふたり仲良く日向ぼこ

秋夜長ぼんやり過ごす酒は友

麻酔覚め霞の向こう目が八つ

環状線降りた所が乗った駅

ぼんやりと曇ガラスに溶けている

ぼんやりと点いた提灯客を引く

ぼんやりと答えが見えた露天風呂

19点 ぼんやりもいいなやさしい風が吹く

東尾由子

真鍋心平太

松島きよみ

船木しげ子晴

松谷由夏

美代

林ともこ

山野寿之

三枝なな

直子

直子

春田敏晴

秋田あかり

島根写太

岡野とら丸

平川柳

佐野正邦

松島きよみ

井澤壽峰

林ともこ

ルイ

岡野とら丸

秋田あかり

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。  
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

# お題 「返事」 短文

互選

1点

百歳で逢う友の洒落つ気  
 洪い返事をもう一度聞く  
 この頃は手話耳遠き夫  
 生返事でも愛を感じる  
 ハイと答える妻の調理場  
 画面にタツ子返事の代わり

2点

ご放念下さいとの返事  
 思いのこもる返事届いた  
 一年生がハイ手を上げる  
 明るく返事世界の平和  
 熟慮しすぎで返事遅れる  
 野太き返事子は変声期  
 声が優しい返事だろうか  
 一週間も返事ない訳

3点

逆さに切手わたしの返事  
 きつと返事だぼとり沈黙  
 心の返事迷路にはまる  
 声掛けすれば笑顔輝く  
 二つ返事で損をする人  
 両手ふさがり顎で返事を  
 大きい返事小さな成果  
 無口を通す雪しんしん  
 スマホに夢中動かぬ娘  
 わてのことなどどうでもよろし

武智三成  
 船木しげ子

美代

東尾由子

武智三成

浜脇蓬生

秋田あかり

久世高鷺

美代

東尾由子

ルイ

松島きよみ

直子

信子

山野寿之

直子

堀内きみ子

蔵内歳重

平川柳

林ともこ

岡野とら丸

小林満寿夫

青空

春田敏晴

4点

Noと言えない日本人です  
 自分を信じファイナルアンサー  
 自問自答のへのへのもへじ

春田敏晴

真鍋心平太

平川柳

5点

二つ返事で受けて後悔  
 届かぬメール心そわそわ  
 呼べど叫べど返らぬ返事

岡野とら丸

久世高鷺

井澤壽峰

6点

気に添わぬからする生返事  
 独り言にも返事する猫

井澤壽峰

船木しげ子

9点

後ろ手のドア返事は無言  
 いずれまたとは便利な言葉  
 ハイ嬉しくて声裏返り

山野寿之

浜脇蓬生

松島きよみ

10点 子供部屋から返事はライン  
 さみしくなってラジオに返事

堀内きみ子

真鍋心平太

今月の投句者(29名 敬称略)

井澤壽峰 加山勝久 勘兵衛

島根写太 船木しげ子

山野寿之 岩原一角 信子

春田敏晴 松島きよみ

武智三成 平川柳 ルイ

三枝なな 真鍋心平太

久世高鷺 青空 林ともこ

秋田あかり 美代

直子 松谷由夏 岡野とら丸

蔵内俊重 浜脇蓬生

小林満寿夫 堀内きみ子 佐野正邦

東尾由子

皆様ご参加、ご協力ありがとうございます。

川柳天守閣 連載 評論 「現代川柳の詩学」を考える ⑩

―川柳の技法(5) 比喩・擬声語(オノマトペ)―

―「古川柳」から現代川柳へ―

十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平 川柳(東京川柳会主宰)

次に「擬音語」と「擬態語」を総称する「擬声語」についてご紹介したいと思います。

「擬音語」は「ヒューヒュー」など風の吹く音や「ワンワン」という犬の鳴き声など言葉で「音声を模写」した比喩表現をいいます。

「擬態語」は「きらきら」など実際には音のしない物や視覚や触覚から感じとれるものの状態や様子、心情を言葉で表現する比喩表現をいいます。

「擬態語」は大別して「のろのろ」「よちよち」などの「動作の模写」を表現する比喩法と「つるつる」や「ぴかぴか」など「状態の模写」を表現する比喩法に分類されます。

そして「擬音語」と「擬態語」の両方の比喩法を総称して「擬声語」といい、「声喩」ともいわれています。

「擬声語」は英語で「オノマトペ」といいます。この

語源は古代ギリシア語の「オノマトペイア」

(onomatopoeia)に由来します。「オノマ」が「名前」を

意味する語で「ペイア」が「作る」を意味する語です。この二語が組み合わせられて「名を創ること」(オノマトペイア)という意味になりました。古代ギリシア語では、

「名付けること」は事物の音声による模写であったため、「対象の特徴をあらわす音の響きで名前を付ける」が「オノマトペイア」の原義です。

『俳風 柳多留』(初篇)には、次のような「擬声語」(オノマトペ)を用いた「古川柳」がみられます。

かねぶつ  
寒念仏みりゝみりゝとあるくなり

この前句は「さまざまな事、さまざまな事」です。「寒念仏」は寒の三十日間、夜中に高声に念仏を唱えて歩く僧などの仏道修行をいいます。最も寒い時季には、道に氷が張り、霜柱が立ち、歩くたびに「みりゝみりゝ」と音がします。この「擬声語」が氷雪を踏み砕く感じがよく表現されます。

手間取つた髪を 姑めじろじろ見

この川柳の前句は「すてゝ置けり、すてゝ置けり」です。やつと結い上がった嫁の髪を誉めもしないで、「じろじろ見」ている「姑め」です。この「じろじろ」が「擬態語」の「動作の模写」をあらわす語です。

ごみごみの中の白かべしち屋なり

この前句は「どうよくなこと、どうよくなこと」です。「ごみごみ」した家並みの中に「白かべ」が目立っているのが、「しち（質）屋」です。

質屋は質草を預かるので、火災対策の上からも白い漆喰で上塗りした「白かべ」の土蔵をもっている質屋が多かったのです。この「ごみごみ」が「擬態語」の「状態の模写」をあらわす語です。

以下、「擬声法」（声喩）を用いた現代川柳を紹介しますが、いずれも「新しいイメージ」の創造を目指して「オノマトペ」が積極的に用いられています。特に女性川柳

家の時実新子（一九二九・二〇〇七）は現代川柳には「オノマトペ」が効果的に用いられています。

悲しさにぐしゃぐしゃぐしゃと顔洗う  
乳房痛しニヨキニヨキ増える彼岸花  
ごうごうと心の火事を抱き眠る  
くやし涙をだくだくとして吸う枕  
裸馬しゃらしゃらしゃんと別れゆく  
足指をぎしぎし洗うさびしい日  
はずむ日の猫ぎゅつと抱きぎゅつと抱き  
乳房つんつん逢いたくないと言うことも  
妻をころしてゆらりゆらりと訪ね来よ

次の定金冬二や中村富二、そして真島久美子の現代川柳にも「オノマトペ」が効果的に用いられています。

冬の蠅ひよろひよると来てわがさだめ 定金冬二  
帽子を脱ぐ 目と鼻が はらはら落ち 中村 富二  
カラカラと部屋に戻ってゆく心 真島久美子

（続く）



# 「成長は良いことか」

真鍋心平太

経済の近代史を知るためにはたった一語を理解すれば良い。それは「成長」という言葉である。西暦1500年の全世界の総生産量は1500億ドルだったのが現在では70兆ドル、1500年には一人当たりの年間生産量が550ドルに対し、今日では一万ドルに上る。

2014年の経済のパイは、1500年のものよりはるかに大きい。その分配はあまりに不公平で、アフリカの農民やインドネシアの労働者が一日身を粉にして働いても手にする食糧は500年前の祖先より少ない。農業革命と同じように、産業革命も、近代経済の成長もおおがかりな詐欺だったと言うことになりかねない。

この批判に対して資本主義は二つの答えを用意している。

1つはそれでもなおかつ資本主義に優るものはないというものである。

経済運営のもう一つの真剣な試みだった共産主義を試そうと言う気になる人は今やほとんど無い。資本主義が気に入らなくても私たちはもうこれなくしては生きていけないというものだ。

2つ目はあともう少しの辛抱だというものだ。私たちは学んだし今も学びつつある。だからパイがもう少し大きくなるまで待てば、みんなでより大きな分け前にありつける。成果の分配はけっして公平にはならないが、全員を満足させられるものになると言う。

確かに、今日の平均的な生活水準は人口が飛躍的に増えたにもかかわらず、私たちが生まれた頃より飛躍的に改善した。

もし2つ目の答えが正しい方向を指し示しているならば、成長などしなくても分配をより公平にする道があるのではない。無意味な戦争さえしなければ、物価は安定する。物価が安定していれば成長などしなくても、やりくり（これを効率化と言っても良い）上手であれば、何とか過ごしていけるのは、ウクライナ戦争前の我が国の失われた二十年で実証済みである。

資源の枯渇を心配しなくても済むように「成長に頼らずより公平な分配を実現する」そういう経済思想がそろそろ出現しても良いのではないかと思う。

今月の巻末絵は「人類よ目を覚ませ」と喝を入れるために奈良東大寺の金剛力士像を描いてみた。

# 第19回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「水晶」 平 川柳 選  
「貰う」 春田敏晴 選  
「自転車」 互 選  
「雑詠」 真鍋心平太 選  
「葉」(短句) 互 選  
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は  
下記 URL から可能です。  
<https://tensyukaku.com/>

投句、互選投票は会員登録が必要です。  
会員登録は下記 URL より  
[https://tensyukaku.com/id\\_make.php](https://tensyukaku.com/id_make.php)

投句開始 2024年11月9日(土) から  
投句締切 2024年11月15日(金) まで  
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。  
11月16日(土) ~ 11月19日(火)  
披講発表 11月20日(水) から随時閲覧可能になり  
ます。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



鉛筆+パステル画

(東大寺金剛力士像)  
クリックで大きく表示

二〇二四年十月二十五日発行  
ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

TEL・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446